※令和４年度以降入学生用

学校番号	３２５

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「詳説日本史」（山川出版社）						
副教材等	高校日本史　詳説日本史スタンダードテスト						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「日本史演習」は１年「歴史総合」で学んだ近代史（幕末以降の「近代化」など）、２３年の「日本史探究」で学ぶ江戸時代までで、学習しなかった戦後史や説明できなかった文化史などを詳しく学習します。
授業は、入試問題を解くための基礎知識の講義を中心にアクティブラーニングを加味して進める予定です。講義では、初めて聞くことに素直に感動してください。歴史に興味・関心を持ち、自ら学習を深める姿勢を育ててください。

2　学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
「学びに向かう力、異文化理解への基礎力育成」日本史の学習をふまえて、日本の伝統文化に関心と知識を持ち、日本社会と国際交流の課題を主体的に解決しようとする力を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	日本史の展開に関わる諸事象について，地理的条件や世界史と関連づけながら基本的な知識を総合的に理解させる。さらに諸資料から日本史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	日本史に関わる諸事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを時期や年代、推移・比較・相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて考察・構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	日本史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、日本の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第二次世界大戦と占領下の日本	2.軍部の台頭 3.第二次世界大戦	a: 日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解している。 b: 当時の社会が抱えた矛盾と満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 満洲事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 授業ﾉｰﾄ	授業ﾉｰﾄ レポート 課題 授業観察
		1.占領と改革 2.冷戦の開始と講和	a: 第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り占領政策と諸改革について理解している。 b: 戦後の諸改革が連合国の対日占領政策にもとづくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ実施されたことについて多面的･多角的に考察し、表現している。 c: 現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期における諸改革が生み出した成果と課題について、主体的に追究しようとしている。			
	高度成長の時代と激動する世界	1.55年体制 2.経済復興から高度経済成長	a: 保守合同による自由民主党の成立から、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生に至る経緯について諸資料から情報を読み取り、外交・政治・経済を踏まえて理解している。 b: 日ソ共同宣言をはじめとする国交交渉と国際連合への加盟、新安保条約・ＬＴ貿易・日韓基本条約・沖縄返還問題などの外交事案がもたらした課題を多面的･多角的に考察し、表現している。 c: 55 年体制の歴史的意義や、1960 年代における保守政権の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見出そうとしている。	定期考査	定期考査 授業ﾉｰﾄ	授業ﾉｰﾄ レポート 課題 授業観察
		1.経済大国への道 2.冷戦の終結と日本社会の変容	a: ドル＝ショックや石油危機による世界経済の混乱に対応するため主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越え経済大国となったことを理解している。 b: 高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中で、２度のる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。 c: 冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 授業ﾉｰﾄ	授業ﾉｰﾄ レ ポ ー ト 課題 授業観察

※令和４年度以降入学生用

2学期	武家政権の成立と成長	鎌倉文化	a：公武関係の変化やユーラシアとの交流などに着目し、鎌倉時代の宗教や文化の特徴について、諸資料から情報を収集して読み取る知識と技能を身につけている。 b：宋・元との交流の窓口や貿易の担い手を視野に入れ、ユーラシアとの交流を多角的に考察し、表現している。 c：鎌倉時代の宗教や文化にみられる平安時代からの特徴の継承や差異について、主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 授業ﾉｰﾄ	授業ﾉｰﾄ レポート 課題 授業観察
		室町文化	a：経済の進展や各地の都市や村の発達、東アジアとの交流などに着目して、室町時代における多様な文化の形成や融合について理解している。 b：室町時代の文化の特徴と、当時の政治・経済の動向との関係を多角的に考察し、根拠を明確にして表現している。 c：室町時代の宗教や文化の特徴について、鎌倉時代との比較を通じて類似点や差異を見出そうとしている。	定期考査	定期考査 授業ﾉｰﾄ	授業ﾉｰﾄ レポート 課題 授業観察
	近世文化の成熟	桃山文化 寛永期の文化	a：桃山文化と寛永期の文化が幅広い国際性をもちつつ、生活文化の中にとけ込んでいったことについて、諸資料から情報を読み取り、理解している。 b：豊臣政権による朝鮮出兵やヨーロッパ勢力との接触による南蛮文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。 c：桃山文化や寛永期の文化の特色を、中世文化の特色との比較を通じて、その類似と差異を見出そうとしている。	定期考査	定期考査 授業ﾉｰﾄ	授業ﾉｰﾄ レポート 課題 授業観察
		元禄文化	a：都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、17 世紀の文化の特徴などについて、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。 b：近世前期における幕府の統治政策や、藩財政の推移と文化との関係について多面的・多角的に考察し表現している。 c：幕藩体制が安定していく中での経済の動向と上方の豪商との関係性を踏まえ、17 世紀の文化の特色を明らかにしようとしている。	定期考査	定期考査 授業ﾉｰﾄ	授業ﾉｰﾄ レポート 課題 授業観察
		宝暦天明期の文化	a：幕藩体制下の社会の変容に着目して、宝暦・天明期における新たな学問の確立、各地に設立された教育機関の展開を理解している。 b：幕藩体制の動揺と文化の展開との関連性について、諸資料から読み取れる情報をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。 c：政治・経済と文化の関係に着目して、宝暦・天明期における文化の展開について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 授業ﾉｰﾄ	授業ﾉｰﾄ レポート 課題 授業観察

※令和４年度以降入学生用

		化政文化	a: 政治･経済と文化の関係などに着目して､19 世紀初期の経済の動向や江戸を中心とする庶民文化の形成について理解している。 b: 近世の前半と後半を比較し､文化への影響力をもつ地域や担い手の変化をもたらした原因について多面的･多角的に考察し､表現している。 c: 近世後期に形成された文化と近代以降の文化との関係性について､学問･教育･出版文化や庶民文化を事例としてつながりを見出そうとしている。	定期考査	定期考査 授業ﾉｰﾄ	授業ﾉｰﾄ レポート 課題 授業観察
３学期	近代の文化	文明開化と明治文化	a: 国家主義的な思想の形成､実証的な学問研究､欧米の科学技術の導入､教育の普及･拡充について､諸資料から情報を読み取る知識と技能を身につけている。 b: 学校教育の必要性の説かれ方や､学校教育の内容と地域社会の変容、国民意識との関係について､近代文化の形成を踏まえて考察し､表現している。 c: 明治期の文化に関わる政府と国民の動向を考察することを通じて､明治文化の特色を主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 授業ﾉｰﾄ	授業ﾉｰﾄ レポート 課題 授業観察
		市民生活の変容と大衆文化	a: 学問･芸術･出版･マスメディアの発展について諸資料から情報を読み取り､欧米文化との関わりとその浸透度、社会風潮との関連を理解している。 b: 都市の発達､鉄道･駅の設置やその影響､工場の増加や生活の変化など､地域社会の変容について多面的･多角的に考察し､表現している。 c: マスメディアや出版の発達で誕生した大衆社会が生み出す課題について､自ら主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 授業ﾉｰﾄ	授業ﾉｰﾄ レポート 課題 授業観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度